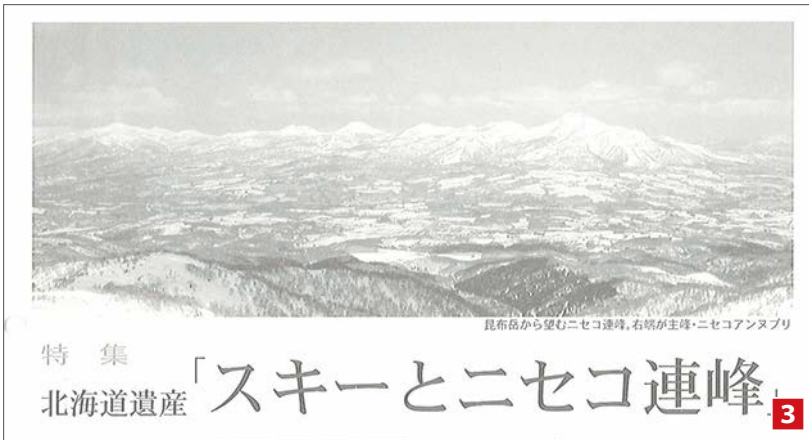




1 記念式典では記録映画やイメージ曲が披露された。じゃが太くんが誕生したのもこの年／2 町の郷土芸能として定着した羊蹄太鼓。ロクさんの音色はこれからも響き渡る／3 私たちの誇りである「スキー」と「ニセコ連峰」は次世代に引き継ぎたい北海道の宝物にも選定された／4 青少年交流事業としてこれまでにサンモリッツで異文化体験を行った学生は27人

平成のくっちゃん その先へ

現在の元号「平成」。その時代は4月30日に幕を閉じ、5月1日からは元号を変え、新たな時代を迎えます。

今月号の特集では、平成の始まりからの倶知安を振り返るとともに、未来に向けて現在も進む町の取り組みについて説明します。

平成のはじまりを
開基百年とともに

平成3年、倶知安町は開基百年を迎えました。さまざまなものが誕生し、発展を遂げたこの町の平成を振り返ってみましょう。

文化やスポーツが身近に

平成6年、総合体育館のオープン。皮切りに、多くの社会教育施設を整備し、文化やスポーツにふれる機会が増えました。

町村合併の協議を重ねて

国と地方の厳しい財政状況や地方分権の推進などを背景に、平成11年から本格化した「平成の大合併」。倶知安町も平成15年、蘭越町・ニセコ町・真狩村・喜茂別町と協議会を設立し、16名の委員が倶知安町の代表となつて協議を進めましたが、合意には至りませんでした。

国際的なスキーリゾートへ

バブル経済が崩壊するとスキーブームは終焉へと向かい、倶知安の観光は厳しい状況となりました。しかしその後、ニセコの自然に惹かれ、倶知安に暮

昭和に続き五輪選手が誕生

スキーは観光客のみならず、私たち住民にとっても身近なスポーツです。平成の時代には、菅恭司選手（平成10・14・18年出場）、中井孝治選手（平成14・18年出場）、前田沙理（旧姓古谷）選手（平成30年出場）の3名が冬季五輪出場を果たしています。

文字一志町長が就任
次の時代へ

そして今年1月28日、第15代倶知安町長に文字一志氏が就任。先人が築いてきた歴史や伝統を礎に、これからも、よりよいまちづくりを目指します。

年表で振り返る
くっちゃん
平成史

- 平成元年 ぐみの有料化スタート
- 平成3年 開基百年記念式典を挙行1
- 平成5年 最後の「町民大運動会」開催
旭ヶ丘スキー場にペアリフト新設
- 平成6年 総合体育館、絵本館オープン
- 平成7年 伊藤弘氏が町長に就任
- 平成8年 保健福祉会館の利用開始
- 平成9年 羊蹄太鼓を町無形民俗文化財に指定2
- 平成10年 北海道新幹線「倶知安駅」の設置が決定
雪ん子館オープン
- 平成11年 小川原脩記念美術館、旭ヶ丘

- パークゴルフ場オープン
- 平成14年 きたろくグラウンド、倶知安風土館オープン
- 平成16年 スキーとニセコ連峰が北海道遺産に認定3
- 平成17年 羊蹄大橋・サンモリッツ大橋が完成
- 平成19年 福島世二氏が町長に就任
ニセコひらふ安全センターが開設
- 平成20年 国道393号全線開通
- 平成25年 倶知安中学校と東陵中学校を統合し、新たに倶知安中学校が開校
- 平成26年 サンモリッツ市との姉妹都市提携50周年4
- 平成27年 西江栄二氏が町長に就任
- 平成29年 北海道新幹線ニッ森トンネル着工
- 平成30年 G20観光大臣会合開催が決定
- 平成31年 文字一志氏が町長に就任

高速道路 が 開通 します

北海道横断自動車道（倶知安～共和間）の着工式が昨年11月23日に行われました。また、共和～余市間については平成28年5月に着工されており、昨年12月8日には、余市～小樽間が開通しました。

移動時間の短縮で暮らしが便利に

開通すると新千歳空港や札幌中心部からの所要時間が約34分短くなり、観光利用客の増加や交通利便性の向上が期待できる他、峠をトンネルで通過できるようになるため、特に冬季における運転の安全性が高まります。さらに、高次医療施設へのアクセス向上による緊急搬送や、災害発生時の避難路の確保など、私たちの暮らしの安全・安心に寄与するものです。なお、倶知安～余市間の料金は無料、開通時期は未定です。

早期開通を目指して

高速道路の整備にあたっては、今後も関係市町村と連携を図りながら、予算の確保や早期整備について、また黒松内～倶知安間の事業化に向けても、国や北海道などに対して要望活動を行っていきます。



■まちづくり新幹線課
☎ 56 - 8012

嶋田 真也 参事

今月号は、皆さんに身近で大きな話題として、以上4つを紹介しました。今後、これらを含むその他の出来事や取り組みについても、広報紙などを使って皆さんに伝えるように説明していきます。分からないことや知りたいことがあれば、気軽に問い合わせてください。

未来は“今”の積み重ねです。今を生きる私たちが過去と未来を見据えながら、次の時代に繋ぐための現在を築いていきましょう。



2031年3月までに 新幹線駅 が 開業 します

2016年3月に新函館北斗駅が開業し、新幹線が北海道に上陸しました。現在、2030年度末（2031年3月）までの新函館北斗～札幌間の開業に向け、倶知安町を含む各沿線自治体において準備が進められています。

札幌まで25分、東京まで4時間36分

豪雪地帯である倶知安町に新幹線駅が開業することで、交通利便性の向上や年間を通じた観光需要の増加が見込まれます。なお、計画では倶知安～東京間の所要時間が4時間36分、倶知安～札幌間が25分となっていますが、青函トンネル内での高速化により、東京までの移動時間はさらに短くなることが想定されます。

町内でも進む整備事業

現在、町内では2つのトンネルで工事が行われています。また、倶知安駅より北側に住む方の多くは、新幹線事業のため移転を強いられることから、町では近隣の町有地での宅地造成事業を進めています。

駅周辺整備など課題は多く

新幹線駅開業に向けて町は、駅前広場や駐車場など駅周辺の整備を行います。並行在来線の存続問題など検討事項は多くありますが、今後も国・北海道や関係団体などとの協議を重ねながら進めていきます。

2030年 札幌冬季五輪の 開催を目指します



■総合政策課
オリ・パラ誘致推進室
☎ 56 - 8001

上木 直道 室長

2030年冬季オリンピック・パラリンピックの開催を目指して札幌市が招致活動をしており、ニセコビレッジ（ニセコ町）がアルペン競技の予定地となっています。倶知安町は競技の候補地ではないものの、メディアセンターや関係者の宿泊場所となることが考えられます。

世界の舞台がより身近に

この開催は、スキーリゾートとしての「ニセコ」が今以上に知れわたるだけではなく、私たちにとってはワールドクラスの競技観戦がより身近になります。そこから刺激を受け、地元競技者のレベルアップにも繋がるかもしれません。また、関係者を含む来訪者が増えることでの経済効果も期待できます。

住民理解あつての五輪開催

開催地が決まるのは、2023年10月頃です。開催にあたっては、住民の理解が不可欠であり、今後予定されている札幌市民を対象とした意向調査の結果によっては、招致を断念することもあり得ます。正式決定までの間、倶知安町が負担する人やお金などについて、皆さんにその内容を説明し、ご理解いただいた上で、開催に向けた準備を進めていきます。

2019年10月 G20 観光大臣会合 が 開催されます



■総合政策課
G20 観光大臣会合推進室
☎ 56 - 8001

土井 良起 室長

G20 観光大臣会合が、今年10月25日（金）・26日（土）の2日間、倶知安町で開催されます。また、5月24日（金）には、高級実務者級会合を開催することが決まりました。

「くっちゃん」の名を世界に

この開催を機に、倶知安町を参加20カ国にPRすることで、今以上にさまざまな国の方がこの町を訪れるようになるのではないのでしょうか。

G20 を盛り上げるために

昨年6月に町長を会長とした町民会議を立ち上げ、町内の機運を高めることやおもてなし事業の実施に向けて取り組んでいます。先月のシーニックナイトでのPRを皮切りに、今後もカウントダウンイベントや子どもたちが参加する関連事業、参加者へのおもてなしなどの事業を実施する予定であり、今はそのための準備を行っています。また、高級実務者級会合の開催に向けても、国や北海道と連携して、準備を進めています。

町全体でおもてなしを

町民の皆さんに、G20 観光大臣会合の開催を知っていただき、町全体で参加者を温かくおもてなしします。せっかくの国際会議の開催です。世界に倶知安町を知ってもらいたい絶好の機会ですので、さまざまな手段を用いてPRするとともに、町民が会合に関わり、そして子どもたちの記憶に残るような取り組みを行っていきます。